

2023 年度事業報告

法人の名称 特定非営利活動法人農と福祉の未来・ハコベ

1 事業活動報告

○事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

①農体験、緑地保全、環境教育などを通じた生涯学習事業

・内 容 自然農講座、近隣保育園、学校等との協同による学習体験、自然農人を
目指す研修制度

耕さない、草や虫を敵にしない、持ち出さない持ち込まない、を理とした自然農の魅力や楽しさ、意義を伝え、土の上の作法と所作を身に着け、自らも実践できる力を養い、自己の力能（生きていく力）の増大を目指す。段ボールコンポストの方法などを紹介し、家庭でもごみの減量化と資源化が実践でき、循環型社会の有り様を展望できる仲間を増やす。今年度は新たに、ハコベ独自の研修制度を検討・試行する。自然農による本格的な農業者を目指したい方の為に、四季を通じたあらゆる自然農の所作を共に学ぶ。最低でも年間 150 日以上畑に立てる方を募集する。

・日 時 毎月 1 回第一日曜日、他

・場 所 青葉区の菜園、田んぼ

・従事者人員 100 人

・受益対象者 市民 200 人

・支出額 70,700 円

(総括)

10回の開催(例年の1月はお休み、2月の味噌造りは雨天中止でした)。四季に沿って行う農の営みを紹介することができた。講座では、自然農を学びたい方はもちろん、菜園に来て皆さんと交流し、時々で採れた野菜を調理してのランチを楽しみに来園される方々、ご家族もいた。11月の稲刈りでは、収穫祭を行い畑や瀬谷区「喫茶バス通り」で上映会も行い、素敵な交流が生まれた。(藤沢市にある障がい者デイケア「サンワークかぐや」の日常を長期取材した「かぐやびより」上映。喫茶バス通りではライブも!) また、特筆すべきは、5月より鉄菜園の隣に民設の市民菜園が開園し、地主とハコベが交渉し、これまで自然農講座に通っていた個人やご家族が区画を格安で借りて実践することができたことである(個人7区画。今年度さらに増区画予定)。これにより、青葉区鉄は、自然農による生産と学びを一体となっていくことができる一大自然農拠点となった。年間150日以上畑に通える研修生の応募は今年度ありませんでしたが、この市民菜園(青葉区鉄、戸塚区俣野)で自然農を深めさらに学びを深めようとする方々が出てくるとを期待する。

②地産地消を推進する事業

・内 容 自然農マルシェ

有志宅の軒先をお借りし、新鮮な自然農野菜を配り、お茶や野菜を使った料理、お菓子等で来訪者を歓待し交流する。近隣の方々の近況を伺ったり来訪者のご様子を伺ったり、又通りすがりの方にも声をかけお野菜を通じた繋がりを作っていく。従来実践してきた「ギフトエコノミー」を推進する。

・日 時 毎月第4日曜日

・場 所 市内

- ・ 従事者人員 50人
- ・ 受益対象者 市民 360人
- ・ 支出額 65,956 円

(総括) 計9回実施。中区山口宅においてのガレージマルシェはすっかり定着した感があるが、昨今の異常気象等により野菜の生産に失敗することもあり、8月2月3月はお休みさせていただいたのが悔やまれる。「地産地消」はもとより、自然農の野菜は食べてみてやはり違うということがかなり浸透し、マルシェを心待ちにしてくださる街の方々が増えたと感じている。ただし、元々ハコベとしては「交流」を大きな目的にもしており、自然農野菜を介した地域や人々との交流を改めて意識した活動を今後行い、「農産物の生産と販売」と「交流」との位置づけを明確にしながら活動していきたい。

③農産物の生産と販売事業

- ・ 内 容 法人ご寄付者への返礼、(半)無人販売所の設置、野菜のセット販売、飲食店などへの販売

今年度からハコベは営農にトライし、収入を得て雇用を創出できる団体を目指す。収入の柱は2本立てである。一つは、ハコベの活動に賛同し協力していただける方々からのご寄付であり、もう一つは生産量を上げることによって農産物収益を上げていくことである。

- ・ 日 時 青葉区、瀬谷区、中区等
- ・ 場 所 市内
- ・ 従事者人員 36人
- ・ 受益対象者 市民 200人以上
- ・ 支出額 4,140 円

（総括）野菜の生産は、本当に厳しい年であった。特に、気温が35度以上続く日が8月9日と続き、10月末に30度以上の日があるなど危機的な日々であった。秋冬野菜の種はお盆を過ぎると苗を作り始めるが、芽が出ては強烈な日光に焼かれ枯れてしまうことが続き途方に暮れた。冬、春の主演である「のらぼう菜」の栽培に失敗した。今年度は瀬谷区「喫茶バス通り」軒下にて無人販売ができることとなった。売り上げは少ないが着実にファンが増えている手ごたえがある。既存の市場を通さず、独自の販売戦略を支援者と共に行うことには意義がある。市場は、ものに対して代替不能な個別的物語やものを生み出す活動や社会的意義への付加価値を排して純粋に交換可能な「商品」に仕立て上げる。私たちはこの市場の運動に一定批判的認識を持っている。新年度は、この無人販売所を拡大できる見通しである。

④障がいを持つ人と持たない人との交流を通じた啓発事業

・内 容 農カフェ

有志宅の軒先をお借りしたり、自然農菜園にてテントを張ったりして、農カフェを開催する。障がいを持つ人も持たない人も等しく活動し、野菜料理、お菓子等で来訪者を歓待し交流する。近隣の方々の近況を伺ったりや来訪者のご様子を伺ったり、又通りすがりの方にも声をかけお野菜を通じた繋がりを作っていく。

・日 時 不定期（月に1回程度）

・場 所 市内

・従事者人員 36人

・受益対象者 市民 240人

・支出見込額 0円

（総括）法人化して以降2年目の総括を迎えたが、上記「カフェ」未だに実行できていない。ただ、ハコベの活動は全てにおいてこの啓発的な意義を担っているとも言える（講座、マルシェなど）。また、青葉区在住で障がい者施設他、地域のボランティアをされている方が果樹を栽培して地域の方々や当事者ご家族たちがそこで触れ合い、遊べる「コミュニティ菜園」を作りたいとご提案いただき、ハコベの正会員にもなってもらい実現に向けて動き出したところである。

⑤障がいを持った方及びそのご家族への相談支援事業

・内 容 個別相談支援

これまで25年間行ってきた精神保健福祉ボランティアの実績や精神
保 福祉士、看護師、介護福祉士等のマンパワーを活用して、誰もが生
きがいや使命を担い、平和に生きる権利を行使できるよう支援する。

・日 時 随時

・場 所 市内

・従事者人員 5人

・受益対象者 市民 120人

・支出見込額 0円

（総括）今季は、相談の形式としては専門的に伺うということではなく、それぞれのハコベの活動中でお話をうかがうような展開となった。ハコベの特徴としては、純粋な相談窓口というよりは、活動を活かした相談支援となるので、専門的な相談や支援が必要だと思えた方については、そちらをご案内や紹介をした。また逆のコースもあり、比較的敷居の低く自由なハコベを見立ててくださり、相談機関から照会され、結果として菜園活動が心身の回復や癒しとなっている方々が増えてきた。ハコベは、障害福祉制度上に位置付けられた機関ではない。その対等性や自由性を活かした活動を今後も行っていきたい。